

|| 企業調査レポート ||

## サカティンクス

4633 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 4 月 2 日 (月)

執筆：客員アナリスト

**水田雅展**

FISCO Ltd. Analyst **Masanobu Mizuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

## 目次

<b>■ 要約</b>	<b>01</b>
1. 印刷インキ事業を主力としたグローバル展開	01
2. 2017年12月期は原材料価格上昇などで営業・経常減益だが純利益は増益	01
3. 2018年12月期は減益予想だが下期から回復基調で上振れ余地	01
4. 環境配慮型高機能・高付加価値製品の市場は国内外で拡大基調	02
5. 新中期経営計画2020を策定	02
6. 連結配当性向20%～30%目安	02
<b>■ 会社概要</b>	<b>03</b>
1. 会社概要	03
2. 沿革	03
3. 事業内容	04
4. 日本及び海外合わせて18の国・地域にグローバル展開	04
5. 東洋インキSCホールディングスとの資本業務提携を継続	04
6. 新たな企業広告デザインを掲出して企業イメージを向上	05
<b>■ 事業概要</b>	<b>06</b>
1. 印刷インキ事業を主力としたグローバル展開	06
2. 日本で3位、北米で3位、世界で4位の大手印刷インキメーカー	07
3. 環境配慮型製品の開発力・品揃え、及び製品の信頼性・品質力が強み	07
4. 市場拡大・開拓余地の大きい環境配慮型高機能・高付加価値製品が高シェア	09
5. アジアと北米が収益柱に成長	09
<b>■ 業績動向</b>	<b>09</b>
1. 2017年12月期連結業績概要	09
2. 財務状況	12
<b>■ 今後の見通し</b>	<b>14</b>
● 2018年12月期連結業績見通し	14
<b>■ 中長期成長戦略</b>	<b>17</b>
1. 市場動向	17
2. 新中期経営計画2020を策定	17
3. グローバル展開の加速と環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販で 中期的に収益拡大基調	20
<b>■ 株主還元策</b>	<b>21</b>
1. 連結配当性向20%前後から30%前後目安	21
2. 株主優待制度は毎年12月末実施	21

## ■ 要約

### グローバル展開と環境配慮型高機能・高付加価値製品拡販で 収益拡大基調

サカタインクス <4633> は日本で 3 位、北米で 3 位、世界で 4 位規模の大手印刷インキメーカーである。1896 年の創業以来、120 年以上の歴史の中で培われた環境配慮型高機能・高付加価値製品の開発力・品揃え、及び製品の高い信頼性・品質力を強みとしている。そしてインキの開発・生産で培ってきた基盤技術を、機能性材料事業に応用展開している。グローバル展開と環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販で、中期的に収益拡大基調と一段の高収益化が期待される。

#### 1. 印刷インキ事業を主力としたグローバル展開

紙媒体用インキ（新聞インキ、オフセットインキ）及びパッケージ用インキ（フレキシインキ、グラビアインキ、メタルインキ）を製造・販売する印刷インキ事業を主力として、印刷製版用材料や印刷関連機器を仕入・販売する印刷用機材事業、インクジェットインキ、トナー、カラーフィルター用顔料分散液、機能性コーティング剤などを製造・販売する機能性材料事業、その他事業（日本市場向け化成品等販売事業、ディスプレイ関連事業、色彩関連機材事業）をグローバル展開しており、環境配慮型高機能・高付加価値製品拡販によって、市場拡大・開拓余地の大きいアジアと北米が収益柱に成長している。

#### 2. 2017 年 12 月期は原材料価格上昇などで営業・経常減益だが純利益は増益

2018 年 2 月 14 日に発表した 2017 年 12 月期の連結業績は、売上高が前期比 4.0% 増の 157,302 百万円、営業利益が同 15.3% 減の 8,573 百万円、経常利益が同 5.2% 減の 11,249 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 7.0% 増の 8,383 百万円だった。インキ販売数量の増加、機能性材料の好調、為替影響などで増収だったが、インドにおける新たな物品・サービス税（GST）導入に伴う顧客の買い控えが第 3 四半期（7 月～9 月）まで影響したこと、北米における新規顧客や新ラインを増設した顧客に対する販売が、当初の計画よりも遅れたことなどで売上高が伸び悩み、原材料価格（特に酸化チタン）の上昇や人件費の増加などで営業利益と経常利益は減益での着地となった。親会社株主に帰属する当期純利益は特別利益の計上などで増益だった。

#### 3. 2018 年 12 月期は減益予想だが下期から回復基調で上振れ余地

2018 年 12 月期の連結業績予想は、売上高が前期比 4.6% 増の 164,500 百万円、営業利益が同 12.5% 減の 7,500 百万円、経常利益が同 15.6% 減の 9,500 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 21.3% 減の 6,600 百万円としている。パッケージ関連を中心に販売数量が増加して増収予想だが、原材料価格上昇などで減益予想としている。ただし上期は販売数量がやや伸び悩み、原材料価格の上昇、人件費の増加、減価償却費の増加が利益を圧迫するが、下期は拡販が進展し、販売数量増加に伴う稼働率上昇効果、アジアの一部地域における販売価格改定の効果も寄与する。なお 2018 年 3 月 13 日に日本のグラビアインキの価格改定をリリースしている。営業利益は上期をボトムとして下期から回復基調だろう。そして通期ベースで会社予想に上振れ余地がありそうだ。

#### 4. 環境配慮型高機能・高付加価値製品の市場は国内外で拡大基調

国内印刷インキ市場は新聞・雑誌等の紙媒体印刷物の減少で成熟イメージが強いが、新聞インキ市場は国内印刷インキ市場全体の約1割を占めるに過ぎず、全体に与える影響は小さい。そして市場の約4割を占めるグラフィックインキ市場が堅調に推移し、フレキシインキ市場も拡大している。特にパッケージ用インキ分野では、世界的に環境配慮型高機能・高付加価値インキへのシフトが進展して市場拡大基調である。そして主に新興国では人口増加や経済成長を背景として印刷インキ市場全体が拡大している。アジアや北米を中心に環境配慮型高機能・高付加価値製品へのシフトも進展するため、市場拡大・開拓余地は大きい。

#### 5. 新中期経営計画 2020 を策定

2017年11月に3ヶ年の「新中期経営計画 2020」を策定し、目標数値に2020年12月期の売上高195,000百万円、営業利益13,000百万円、経常利益15,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益9,800百万円、ROE10%以上を掲げた。コア事業である印刷インキ事業及び機能性材料事業の拡大、コア事業で培った技術の応用展開による新規事業の創出を推進する。環境対応型製品へシフトする流れが強まっており、世界的に市場拡大・開拓余地は大きい。先行してグローバル展開した実績、各国の地域特性に合わせて製品投入するノウハウ、環境配慮型高機能・高付加価値製品の開発・品揃え・高シェアが強みであり、グローバル展開の加速と環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販で、中期的に収益拡大基調と一段の高収益化が期待される。

#### 6. 連結配当性向 20%～30%目安

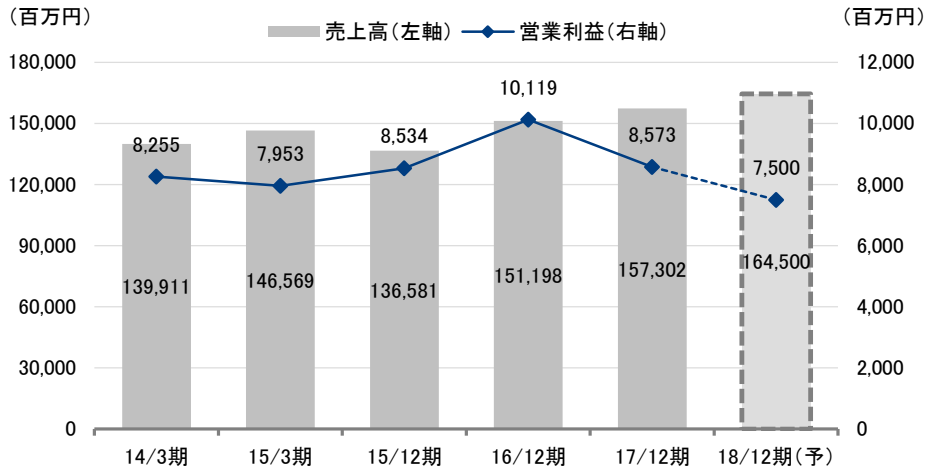
連結配当性向は20%前後から30%前後の範囲を目安としている。2017年12月期の配当は1株当たり年間30円(第2四半期末14円、期末16円)とした。2016年12月期の年間28円(うち記念配当2円)との比較で2円増配である。配当性向は21.0%だった。そして2018年12月期の配当予想は、2017年12月期と同額の1株当たり年間30円(第2四半期末15円、期末15円)としている。予想配当性向は26.5%である。

#### Key Points

- ・印刷インキ事業を主力としたグローバル展開
- ・2018年12月期は減益予想だが下期から回復基調で上振れ余地
- ・強みとする環境配慮型高機能・高付加価値製品の市場は国内外で拡大基調

## 要約

## 業績推移



注：15/12期は9ヶ月決算  
 出所：決算短信より掲載

## 会社概要

### 日本で3位、北米で3位、世界で4位の印刷インキメーカー

#### 1. 会社概要

同社は1896年の創業以来120年以上の歴史を誇り、日本で3位、北米で3位、世界で4位規模の印刷インキメーカーである。印刷インキ事業をコアとして、120年以上の歴史の中で培われた環境配慮型高機能・高付加価値製品の開発力・品揃え・高シェア、製品の高い信頼性・品質力を強みとしている。さらにビジネステーマである「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」に向けて、インキの開発・生産で培ってきた基盤技術を機能性材料事業に応用展開し、新たな事業の柱の育成も目指している。

2017年12月期末時点の資本金は7,472百万円、発行済株式総数は62,601,161株（うち自己株式数4,201,482株）で、連結従業員数は4,068名である。

#### 2. 沿革

1896年個人商店の阪田インキ製造所として大阪市で創業、新聞インキの製造・販売を開始した。1911年日本で初めて亜麻仁油製印刷インキ用ワニスの工業化に成功、1920年株式会社組織に改組、1961年大阪証券取引所市場第2部に上場、1962年大阪証券取引所市場第1部に指定替え、1987年商号をサカタインクス株式会社に改称、1988年東京証券取引所市場第1部に上場した。そして2016年11月に創業120周年を迎えた。

サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

会社概要

海外展開は、1960年フィリピン（マニラ市）に初の海外駐在所を開設し、以降順次、海外主要拠点に駐在事務所ならびに現地法人を設立している。

2016年12月には、(株)東京証券取引所および(株)日本経済新聞社が共同で算出・配信する「JPX日経中小型株指数」(2017年3月13日算出開始)の構成銘柄に選定された。2017年1月には「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の認証を取得した。

2017年12月には国内の主力4工場（東京、大阪、滋賀、羽生）においてTPMアドバンスト特別賞を受賞した。TPM（Total Productive Maintenance = 全員参加の生産保全）は日本プラントメンテナンス協会によって提唱されたもので、同社の革新的生産方式の構築と海外への展開などが高く評価された。また「設備保証度の向上」についての論文がTPM優秀論文賞・プロダクション部門・第2席を受賞した。

### 3. 事業内容

日本・アジア・北米・欧州市場向けに紙媒体用インキ（新聞インキ、オフセットインキ）及びパッケージ用インキ（フレキシインキ、グラビアインキ、メタルインキ）を製造・販売する印刷インキ事業を主力として、日本市場向けに印刷製版用材料や印刷関連機器を仕入・販売する印刷関連機材事業、日本・アジア・北米・欧州市場向けにインクジェットインキ、トナー、カラーフィルター用顔料分散液、機能性コーティング剤などを製造・販売する機能性材料事業、その他事業（日本市場向け化成品等販売事業、ディスプレイ関連事業、色彩関連機材事業）を展開している。

### 4. 日本及び海外合わせて18の国・地域にグローバル展開

2017年12月期末時点のグループ企業は、同社、連結子会社23社、持分法適用関連会社6社、及び非連結子会社3社で構成されている。同社から分離独立した電子部品輸出入・EMS事業のシークス<7613>は持分法適用関連会社である。

2016年11月には米国子会社を通じて、ブラジル連邦共和国の印刷用インキ製造販売会社であるCreative Industria e Comercio Ltda.（以下、クリエイティブ社）を買収した。当社は非連結子会社だが、同社にとって南米初の生産拠点である。

またクリエイティブ社を含めて、日本及び海外合わせて18の国・地域に印刷用インキ製造販売拠点を展開している。

### 5. 東洋インキSCホールディングスとの資本業務提携を継続

東洋インキ製造（株）（現東洋インキSCホールディングス<4634>）と、1999年に生産・ロジスティクス・デジタル関連事業及び国際事業に関して業務提携し、2000年に資本提携した。

サカティクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

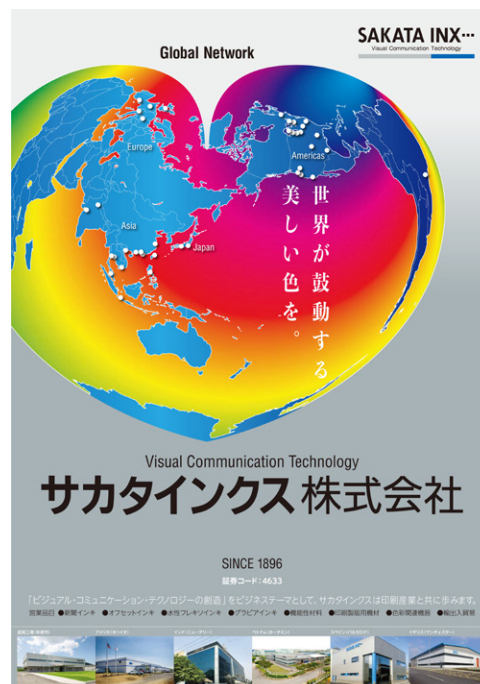
#### 会社概要

2017年2月には東洋インキ SC ホールディングスとの業務提携推進および資本提携継続を発表した。業務提携では物流分野における一層の効率化、生産分野における相互補完、BCP 対策に基づく緊急時における国内外拠点での生産補完を推進する。また、業務提携の実効性を高めるとともに、長期的なパートナーシップ構築に向けて、相互に保有している株式のうち8割にあたる普通株式について継続保有していくことで合意した。2割については相互に自社株買いを実施し、自己株式として取得した。株式持ち合いを縮小して相互の保有比率を引き下げたが、東洋インキ SC ホールディングスは引き続き同社の第1位株主であり、資本業務提携の関係を継続する。

#### 6. 新たな企業広告デザインを掲出して企業イメージを向上

同社の新たな企業広告デザインを作製し、2017年6月にはJR 東海道新幹線の東京駅南乗り換え口構内に、また2017年8月にはJR 東海道・山陽新幹線の新大阪コンコースに、それぞれ同社の企業広告を掲出した。ダイナミックなカラーリングを施したハート形の世界地図が、視覚的印象から“心臓”を想起させ、それをキャッチコピーに生かして「世界が鼓動する美しい色を。」としている。企業イメージの向上につながる効果が期待される。

#### 企業広告デザイン



出所：会社資料より掲載

## ■ 事業概要

### 印刷インキ事業主力で環境配慮型の高機能・高付加価値製品に強み

#### 1. 印刷インキ事業を主力としたグローバル展開

印刷インキ事業は、日本・アジア・北米及び欧州の各市場向けに、紙媒体用インキ（新聞印刷用の新聞インキ、書籍・雑誌・カタログ・ポスター・チラシ・伝票など各種商業印刷物印刷用のオフセットインキ）、及びパッケージ用インキ（段ボールや紙器などパッケージ印刷用のフレキシインキ、食品・化粧品・トイレタリー製品・日用品などフィルムパッケージ印刷用のグラビアインキ、飲料缶など金属缶印刷用のメタルインキ）を製造・販売している。

印刷関連機材事業は主として日本市場向けに、CTP（Computer to Plate）セッター、CTP版、インクジェットブルーファア、インクジェットブルーフ用紙、編集用ソフトウェア、カラーマネジメントシステム、インキディスプレイなどの印刷製版用材料や印刷関連機器を仕入・販売している。

機能性材料事業は、日本・アジア・北米及び欧州の各市場向けに、デジタル印刷材料（大型出力物やテキスタイルなどに使用される産業用インクジェットインキ、レーザープリンターや複合機に使用されるカラートナー・モノクロトナー）、画像表示材料（カラーフィルター用顔料分散液）、及び機能性コーティング剤を製造・販売している。

その他事業は主として日本市場向けに、化成系等販売事業（阪田産業（株））、ディスプレイ関連事業（サカタラボレーション（株））、及び色彩関連機材事業（サカタインクスエンジニアリング（株））などを行っている。

主力の印刷インキ事業及び機能性材料事業は、グローバル展開加速と各地域特性に応じた製品戦略推進、環境配慮型高機能・高付加価値製品拡販による数量増で、収益拡大を目指している。

なお連結決算における報告セグメントは、印刷インキ・機材（日本）、印刷インキ（アジア）、印刷インキ（北米）、印刷インキ（欧州）、機能性材料、その他事業としている。



サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

## 事業概要

## 連結決算における報告セグメントと主要製品

報告セグメント	主要製品
印刷インキ・機材 (日本)	新聞インキ、オフセットインキ、フレキソインキ、グラビアインキ、印刷関連機材
印刷インキ (アジア)	新聞インキ、オフセットインキ、フレキソインキ、グラビアインキ、メタルインキ
印刷インキ (北米)	オフセットインキ、フレキソインキ、グラビアインキ、メタルインキ
印刷インキ (欧州)	オフセットインキ、フレキソインキ、グラビアインキ、メタルインキ
機能性材料	デジタル印刷材料 (インクジェットインキ、カラートナー、モノクロトナー)
	画像表示材料 (カラーフィルタ用顔料分散液)
	機能性コーティング剤 (各種コーティング剤)
その他	化成品等販売事業 (阪田産業)
	ディスプレイサービス関連事業 (サカタラボステーション)
	色彩関連機材事業 (サカタインクスエンジニアリング)

出所：会社資料よりフィスコ作成

## 2. 日本で3位、北米で3位、世界で4位の大手印刷インキメーカー

売上高ランキングで見ると、同社は日本で3位、北米で3位 (出典：INK WORLD 「North American Top 20 Ink Industry Report」 2017.3.7)、そして世界で4位 (出典：INK WORLD 「The 2016 Top International Ink Companies Report」 2017.7.28) という大手印刷インキメーカーである。

## 世界のインキ売上高 (2016年) 上位10社

順位	社名	国名	売上高 (単位：Million \$)
1	DIC/Sun Chemical	日本	4,420
2	Flint Group	ルクセンブルグ	2,300
3	東洋インキ SCホールディングス	日本	1,300
4	サカタインクス	日本	1,290
5	Siegwerk Group	ドイツ	1,100
6	Huber Group	ドイツ	935
7	T&K TOKA	日本	430
8	Fujifilm North America	アメリカ	400
9	東京インキ	日本	390
10	SICPA	スイス	375

出所：INK WORLD 「The 2016 Top International Ink Companies Report」 (2017.7.28) よりフィスコ作成

## 3. 環境配慮型製品の開発力・品揃え、及び製品の信頼性・品質力が強み

1896年の創業以来、120年以上の歴史の中で培われた環境配慮型の高機能・高付加価値製品の開発力・品揃え、及び製品の高い信頼性・品質力を強みとしている。

サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

#### 事業概要

環境配慮型高機能・高付加価値製品の品揃えは、エコマーク（公益財団法人日本環境協会が運営する環境ラベリング制度）に認定されたインキ、印刷インキ工業連合会が定めた定義・基準に準拠して高沸点石油系溶剤を各種植物油（大豆油など）に置き換えた植物油インキ、構成成分中の高沸点石油系溶剤を1%未満に抑えたノンVOCインキ、植物由来材料の中で特に米ぬか油由来成分を含有したライスインキ、有機溶剤のトルエン含有量を0.3%未満にしたノントルエンインキ、MEK（メチルエチルケトン）も使用しないノントルエン・ノンMEKインキ、水性でありながら高い性能を有する水性フレキシオンキなど豊富である。

新聞インキでは自然の色・鮮やかな発色性を求め、色再現範囲の拡大・網点再現性の向上・ドットゲインの最適化によって高紙面品質を追求した高発色性インキ「ニュースウェブマスター エコピュア」（エコマーク認定）を開発し、高評価を得ている。また、カラー紙面の高品質化や、新聞製作システムの上流から下流までの、色に関する管理を行うカラーマネジメントシステムの技術力と実績が、新聞社から大きな信頼を得ている。

オフセットインキでは、業界に先駆けて環境に配慮した製品の市場導入を図り、高速オフ輪インキや枚葉インキなど多様なニーズに対応できるインキを始め、近年普及が進む高感度UV印刷機に対応した紫外線硬化型UVインキ「ドリームキュア」シリーズの展開も進めている。

パッケージ用インキの分野では、業界に先駆けて早くから開発を始めた段ボール用水性フレキシオンキで国内市場シェア1位を誇り、製紙業界に機能性コーティング剤など多様な新技術を提供している。

また、主に食品包装などに使用されるフィルムパッケージ用のグラビアインキでも、環境に配慮した高性能・高品質なインキを提供している。特に、植物由来材料を使用した「ボタニカルインキ」は2016年末から展開を始め、大手コンビニエンスストアのPB商品のパッケージに採用されるなど好評を得ている。なお「ボタニカルインキ」が使用された印刷物には、同社が商標登録した独自のロゴマークを印刷することができる。

#### ボタニカルインキマーク



出所：会社資料より掲載

## 事業概要

#### 4. 市場拡大・開拓余地の大きい環境配慮型高機能・高付加価値製品が高シェア

国内・海外とも、ミドルレンジ以上の環境配慮型高機能・高付加価値製品を主力として展開し、各市場で高シェアを誇っている。環境配慮型高機能・高付加価値製品の分野は、世界的に地球環境問題への取り組みを強化する流れも背景として、市場拡大余地そして市場開拓余地が大きい。

紙媒体用インキの分野では、新聞インキ、及び雑誌・パンフレット用などのオフセットインキで、いずれも環境配慮型製品の比率がほぼ100%に達している。またパッケージ用インキの分野の市場シェアは、段ボールや紙器などパッケージ印刷用フレキシインキが国内1位、食品・日用品などフィルムパッケージ印刷用グラビアインキが国内2位、飲料缶など金属缶印刷用メタルインキが世界1位と高シェアを誇っている。

#### 5. アジアと北米が収益柱に成長

2017年12月期の連結売上高は157,302百万円で、セグメント別売上高(連結調整前)構成比は、印刷インキ・機材(日本)が33.4%、印刷インキ(アジア)が18.4%、印刷インキ(北米)が26.4%、印刷インキ(欧州)が5.3%、機能性材料が6.9%、その他が9.6%だった。また2017年12月期の営業利益は8,573百万円で、セグメント別営業利益(連結調整前)構成比は、印刷インキ・機材(日本)が28.4%、印刷インキ(アジア)が29.5%、印刷インキ(北米)が23.0%、印刷インキ(欧州)が0.3%、機能性材料が14.3%、その他が4.4%だった。

グローバル展開の加速や環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販によって、市場拡大・開拓余地の大きいアジアと北米が収益柱に成長している。

## 業績動向

### 2017年12月期は原材料価格上昇などで営業・経常減益だが純利益は増益

#### 1. 2017年12月期連結業績概要

2018年2月14日に発表した2017年12月期の連結業績は、売上高が前期比4.0%増の157,302百万円、営業利益が同15.3%減の8,573百万円、経常利益が同5.2%減の11,249百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同7.0%増の8,383百万円だった。

計画値(2017年2月24日投資有価証券売却益計上に伴って親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正、2017年8月10日売上高、営業利益、経常利益を下方修正)との比較で見ると、売上高は1,198百万円、営業利益は1,027百万円、経常利益は751百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は317百万円、それぞれ下回って着地した。

サカイクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

業績動向

インキ販売数量の増加、機能性材料の好調、為替影響などで前期比増収だったが、計画値（2017年8月10日修正値）との比較では、日本における広告需要の低迷が想定以上だったこと、インドにおける新たな物品・サービス税（GST）導入に伴う顧客の買い控えが第3四半期（7月～9月）まで影響したこと、北米における新規顧客や新ラインを増設した顧客に対する販売が、当初の計画よりも遅れたことなどで、売上高が伸び悩んだ。

利益面では、売上高が計画を下回ったことに加えて、原材料価格（特に酸化チタン）の上昇や人件費の増加などが影響した。営業利益と経常利益は計画を下回り、前期比減益での着地となった。売上総利益は前期比1.3%減少し、売上総利益率は23.5%で1.3ポイント低下した。販管費は3.9%増加したが、販管費比率は18.0%で0.1ポイント低下した。売上高営業利益率は5.5%で1.2ポイント低下した。

営業外では持分法投資利益が114百万円増加し、為替差損益が711百万円改善（2016年12月期は為替差損322百万円、2017年12月期は為替差益389百万円を計上）した。売上高経常利益率は7.2%で0.6ポイント低下した。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益に計上した投資有価証券売却益1,124百万円、及び法人税等の減少が寄与して増益だった。売上高純利益率は5.3%で0.1ポイント上昇した。

なお為替の期中平均レートは1米ドル＝112円19銭（2016年12月期は1米ドル＝109円27銭）だった。海外連結子会社の為替換算影響額は売上高で2,410百万円、営業利益で51百万円、経常利益で72百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で42百万円、それぞれプラス要因だった。為替換算影響排除後ベースでは、売上高は前期比2.4%増収、営業利益は同15.8%減益、経常利益は同5.8%減益、親会社株主に帰属する当期純利益は同6.4%増益だった。

連結業績

(単位：百万円、%)

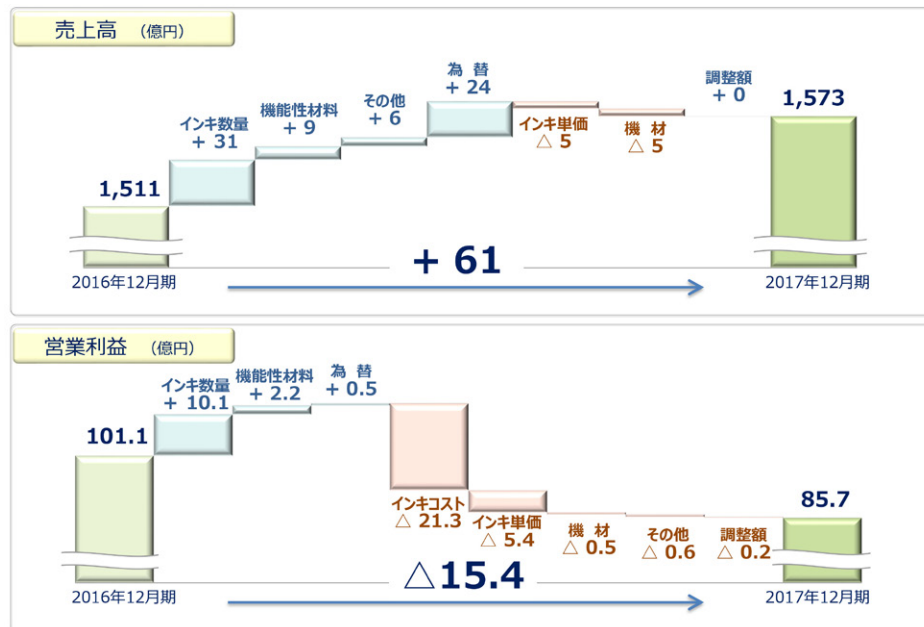
	16/12期		17/12期		増減額	増減率	為替換算 影響額	為替影響排 除後増減率
	金額	売上高比率	金額	売上高比率				
売上高	151,198		157,302		6,104	4.0	2,410	2.4
営業利益	10,119	6.7	8,573	5.5	-1,545	-15.3	51	-15.8
経常利益	11,868	7.8	11,249	7.2	-618	-5.2	72	-5.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,837	5.2	8,383	5.3	545	7.0	42	6.4
期中レート(USドル)	109.27円		112.19円					

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

前期との比較による要因別増減分析によると、売上高6,104百万円増加の増収要因はインキ数量3,100百万円、機能性材料900百万円、その他600百万円、為替2,400百万円、調整額0百万円で、減収要因はインキ単価500百万円、機材500百万円だった。また営業利益1,545百万円減少の増益要因はインキ数量1,010百万円、機能性材料220百万円、為替50百万円で、減益要因はインキコスト2,130百万円、インキ単価540百万円、機材50百万円、その他60百万円、調整額20百万円だった。インキ数量はパッケージ関連中心に増加した。原材料価格の上昇は特にアジアで顕著だった。

## 業績動向

売上高・営業利益要因別増減分析の図



出所：決算説明資料より掲載

セグメント別（連結調整前、為替影響排除前）に見ると、前期との比較で、印刷インキ・機材（日本）は売上高が0.2%減の54,985百万円で営業利益が10.4%減の2,253百万円、印刷インキ（アジア）は売上高が6.8%増の30,245百万円で営業利益が26.0%減の2,347百万円、印刷インキ（北米）は売上高が3.6%増の43,560百万円で営業利益が17.5%減の1,830百万円、印刷インキ（欧州）は売上高が12.3%増の8,777百万円で営業利益が88.3%減の25百万円、機能性材料は売上高が11.5%増の11,336百万円で営業利益が23.2%増の1,140百万円、その他は売上高が4.1%増の15,790百万円で営業利益が16.5%減の350百万円だった。

印刷インキ・機材（日本）は売上高、利益とも計画を下回り減収減益だった。パッケージ関連で食品・飲料用途のグラビアインキが安定的に推移し、印刷関連機材も好調だったが、広告需要の低迷が想定以上となり、新聞インキ及びオフセットインキの販売が低調だった。利益面では、売上高の伸び悩みに加えて、第4四半期（10月-12月）には原材料価格の上昇も影響した。

印刷インキ（アジア）は増収減益で、売上高、利益とも計画を下回った。インドネシアとベトナムでパッケージ用グラビアインキ、インドとベトナムで新聞・オフセットインキの販売数量が増加したが、インドにおける新たな物品・サービス税（GST）導入に伴う顧客の買い控えが第3四半期（7月-9月）まで影響した。利益面では販売数量の伸び悩みに加えて、原材料価格（特に酸化チタン）の上昇、賃金アップによる人件費の増加が影響して大幅減益だった。

サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

## 業績動向

印刷インキ（北米）は増収減益で、売上高、利益とも計画を下回った。パッケージ用のフレキシインキ、グラビアインキ、メタルインキ、及びUVインキが堅調に推移し、為替の円安も寄与したが、オフセットインキの需要が想定以上に減少したこと、新規顧客や新ラインを増設した顧客に対する販売が、当初の計画よりも遅れたことなどが影響した。利益面では増産対応で増員したため人件費が先行する形になり、原材料価格上昇も影響した。

印刷インキ（欧州）は増収減益で、売上高、利益とも計画を下回った。グラビアインキ、フレキシインキ、メタルインキなどパッケージ関連を中心に生産・販売体制を再構築し、全体として拡販が進展した。ただし下期（7月－12月）の拡販がやや伸び悩み、原材料価格の上昇、生産・販売体制再構築に伴う人件費の上昇、前期に発生した英ポンド安による利益の拡大が今期はなくなったことなどで大幅減益となり、収益改善が遅れる形となった。

機能性材料は増収増益で、売上高、利益とも計画を上回った。日本及び北米において、インクジェットインキ及びカラーフィルター用顔料分散液の販売数量が増加した。北米におけるインクジェットインキ生産体制再編に伴うコストの増加を吸収して大幅増益だった。

## セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	16/12期 金額	17/12期			
		金額	増減額	為替換算 影響額	
売上高	印刷インキ・機材（日本）	55,114	54,985	△ 128	-
	印刷インキ（アジア）	28,308	30,245	1,937	894
	印刷インキ（北米）	42,044	43,560	1,515	1,134
	印刷インキ（欧州）	7,817	8,777	960	172
	機能性材料	10,162	11,336	1,173	218
	報告セグメント計	143,447	148,904	5,457	2,419
	その他	15,168	15,790	622	-
	調整額	△ 7,416	△ 7,392	23	△ 8
	合計	151,198	157,302	6,104	2,410
	営業利益	印刷インキ・機材（日本）	2,516	2,253	△ 262
印刷インキ（アジア）		3,170	2,347	△ 823	69
印刷インキ（北米）		2,218	1,830	△ 388	41
印刷インキ（欧州）		218	25	△ 193	△ 52
機能性材料		925	1,140	214	△ 10
報告セグメント計		9,049	7,596	△ 1,452	47
その他		419	350	△ 68	-
調整額		650	626	△ 24	3
合計		10,119	8,573	△ 1,545	51

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 2. 財務状況

財務面では、2017年12月期末の自己資本比率が52.0%で2016年12月期末比0.3ポイント上昇、1株当たり純資産が1,295円39銭で116円01銭増加した。また長短借入金残高合計は15,688百万円で670百万円減少した。財務健全性は着実に向上している。

サカティンクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

## 業績動向

## 主要経営指標

(単位:百万円、円、%)

項目	14/3期	15/3期	15/12期 (9ヶ月)	16/12期	17/12期
売上高	139,911	146,569	136,581	151,198	157,302
売上原価	107,430	112,581	103,826	113,773	120,371
売上総利益	32,480	33,988	32,754	37,425	36,931
売上総利益率(%)	23.2	23.2	24.0	24.8	23.5
販管費	24,225	26,034	24,219	27,305	28,358
販管费率(%)	17.3	17.8	17.7	18.1	18.0
営業利益	8,255	7,953	8,534	10,119	8,573
営業利益率(%)	5.9	5.4	6.2	6.7	5.5
営業外収益	1,773	2,131	2,601	2,531	3,048
営業外費用	584	712	1,067	782	371
経常利益	9,443	9,372	10,068	11,868	11,249
経常利益率(%)	6.7	6.4	7.4	7.8	7.2
特別利益	6	779	1,539	801	1,424
特別損失	0	1,128	2	386	317
税金調整前当期純利益	9,450	9,023	11,604	12,283	12,356
法人税等合計	3,124	4,206	3,258	3,798	3,466
親会社株主に帰属する当期純利益	5,964	4,338	7,745	7,837	8,383
当期純利益率(%)	4.1	3.0	5.7	5.2	5.3
包括利益	11,133	11,508	6,265	6,381	9,946
資産合計	115,407	129,912	136,564	138,012	145,489
(流動資産)	62,876	69,346	72,554	71,716	76,199
(固定資産)	52,530	60,565	64,010	66,295	69,290
負債合計	60,723	65,126	66,944	63,698	66,723
(流動負債)	43,116	43,753	46,574	45,304	47,968
(固定負債)	17,606	21,373	20,370	18,393	18,754
純資産合計	54,684	64,785	69,619	74,313	78,766
(株主資本)	55,724	58,756	65,230	71,555	74,737
資本金	7,472	7,472	7,472	7,472	7,472
自己株式除く期末発行済株式総数(株)	60,509,187	60,508,675	60,508,154	60,507,951	58,399,679
1株当たり当期純利益(円)	98.57	71.71	128.01	129.53	142.76
1株当たり純資産(円)	877.85	1034.84	1107.63	1179.38	1295.39
1株当たり配当額(円)	18.00	20.00	22.00	28.00	30.00
自己資本比率(%)	46.0	48.2	49.1	51.7	52.0
自己資本当期利益率(%)	12.2	7.5	11.9	11.3	11.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,203	6,487	11,254	11,697	9,201
投資活動によるキャッシュ・フロー	-3,920	-9,156	-3,214	-6,727	-2,737
財務活動によるキャッシュ・フロー	-3,943	2,745	-5,973	-3,552	-6,259
現金及び現金同等物の期末残高	5,514	5,923	7,888	9,297	9,351
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	2.6	3.7	1.8	1.5	1.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	20.2	17.3	34.6	44.9	36.9

出所:会社資料よりフィスコ作成

## ■ 今後の見通し

### 2018年12月期は減益予想だが下期から回復基調で上振れ余地

#### ● 2018年12月期連結業績見通し

2018年12月期の連結業績予想は、売上高が前期比4.6%増の164,500百万円、営業利益が同12.5%減の7,500百万円、経常利益が同15.6%減の9,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同21.3%減の6,600百万円としている。為替の想定レート(期中平均)は1米ドル=112円(2017年12月期実績は1米ドル=112円19銭)としている。

パッケージ関連を中心に販売数量が増加して増収予想だが、原材料価格上昇などの影響で減益予想としている。販売価格の改定は、アジアの一部(インド、インドネシア、ベトナム)において溶剤系の値上げを打ち出しているが、他の地域では販売価格の改定を織り込んでいない。なお2018年3月13日に日本のグラビアインキの価格改定をリリースした。

#### セグメント別推移

売上高 (単位:百万円)

	14/3期	15/3期	15/12期 (9ヶ月)	16/12期	17/12期	18/12期予
印刷インキ・機材(日本)	60,124	57,304	42,727	55,114	54,985	56,064
印刷インキ(アジア)	25,155	28,299	28,071	28,308	30,245	33,869
印刷インキ(北米)	34,230	38,712	44,920	42,044	43,560	44,986
印刷インキ(欧州)	7,571	8,637	9,031	7,817	8,777	9,283
機能性材料	6,832	8,311	8,230	10,162	11,336	12,510
報告セグメント計	133,913	141,266	132,981	143,447	148,904	156,712
その他	13,244	13,645	9,598	15,168	15,790	15,389
調整額	-7,247	-8,342	-5,999	-7,416	-7,392	-7,601
連結財務諸表計上額	139,911	146,569	136,581	151,198	157,302	164,500

出所:会社資料よりフィスコ作成

営業利益 (単位:百万円)

	14/3期	15/3期	15/12期 (9ヶ月)	16/12期	17/12期	18/12期予
印刷インキ・機材(日本)	3,487	2,439	1,856	2,516	2,253	1,449
印刷インキ(アジア)	2,337	2,239	2,875	3,170	2,347	2,361
印刷インキ(北米)	1,442	1,525	2,344	2,218	1,830	1,684
印刷インキ(欧州)	-118	0	126	218	25	-254
機能性材料	449	961	432	925	1,140	1,310
報告セグメント計	7,599	7,166	7,636	9,049	7,596	6,550
その他	303	299	295	419	350	319
調整額	352	486	602	650	626	631
連結財務諸表計上額	8,255	7,953	8,534	10,119	8,573	7,500

出所:会社資料よりフィスコ作成



サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

今後の見通し

売上高と営業利益を、上期（1月－6月）と下期（7月－12月）に分解すると、上期は売上高が80,400百万円、営業利益が3,300百万円、下期は売上高が84,100百万円、営業利益が4,200百万円となり、下期偏重の計画である。

上期の売上高80,400百万円は前年同半期（2017年12月期上期）比で4.0%増収、前半期（2017年12月期下期）比で0.5%増収、営業利益3,300百万円は前年同半期比で27.6%減益、前半期比で17.8%減益となる。これに対して下期の売上高84,100百万円は前年同半期（2017年12月期下期）比で5.1%増収、前半期（2018年12月期上期）比で4.6%増収、営業利益4,200百万円は前年同半期比で4.6%増益、前半期比で27.3%増益となる。

上期は販売数量がやや伸び悩み、原材料価格の上昇、人件費の増加、減価償却費の増加が利益を圧迫するが、下期は拡販が進展し、販売数量増加に伴う稼働率上昇効果、アジアの一部地域における販売価格改定の効果も寄与する。営業利益は上期をボトムとして、下期から回復基調だろう。2018年3月13日にリリースした日本のグラビアインキの価格改定も考慮すれば、通期ベースで会社予想に上振れ余地がありそうだ。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	17/12 期 通期	18/12 期予想				通期
		前期比増減額			通期	
		上半期	下半期	通期		
<b>売上高</b>						
印刷インキ・機材（日本）	54,985	△ 104	1,183	1,079	56,064	
印刷インキ（アジア）	30,245	1,710	1,913	3,623	33,869	
印刷インキ（北米）	43,560	726	701	1,426	44,986	
印刷インキ（欧州）	8,777	234	271	505	9,283	
機能性材料	11,336	590	583	1,174	12,510	
報告セグメント計	148,904	3,156	4,651	7,807	156,712	
その他	15,790	68	△ 470	△ 402	15,389	
調整額	△ 7,392	△ 97	△ 111	△ 208	△ 7,601	
合計	157,302	3,128	4,069	7,197	164,500	
<b>営業利益</b>						
印刷インキ・機材（日本）	2,253	△ 724	△ 79	△ 804	1,449	
印刷インキ（アジア）	2,347	△ 84	97	13	2,361	
印刷インキ（北米）	1,830	△ 149	2	△ 146	1,684	
印刷インキ（欧州）	25	△ 285	5	△ 280	△ 254	
機能性材料	1,140	△ 6	176	170	1,310	
報告セグメント計	7,596	△ 1,248	200	△ 1,047	6,550	
その他	350	△ 32	0	△ 32	319	
調整額	626	23	△ 18	5	631	
合計	8,573	△ 1,258	184	△ 1,073	7,500	

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

今後の見通し

各セグメントの通期予想（連結調整前、為替影響排除前）及び重点施策は以下のとおりである。

印刷インキ・機材（日本）は、売上高が2.0%増の56,064百万円だが、営業利益が35.7%減の1,449百万円の予想としている。高感度UVオフセットインキ、フィルムパッケージ用「ボタニカルインキ」シリーズ、紙器用「ボタニカルインキ」の「エコブラダ」「エコピーノ」など環境配慮型製品の拡販を推進する。通期ベースは原材料価格上昇などで大幅減益予想だが、下期からは滋賀工場における追加設備の本格稼働に伴ってコストダウン効果が期待されるため、収益大幅改善を見込んでいる。

印刷インキ（アジア）は売上高が12.0%増の33,869百万円、営業利益が0.6%増の2,361百万円の予想としている。パッケージ分野でグローバル顧客向け高性能環境配慮型製品の拡販を推進する。利益面では販売数量増効果に加えて、TPM活動による生産性向上・コスト削減も推進し、原材料価格上昇や人件費増加を吸収する。下期に改善効果が本格化して、通期ベースで微増益予想である。2017年12月期にインドで発生したGST導入に伴う顧客の買い控えという特殊要因がなくなり、インド、インドネシア、ベトナムにおけるグラビアインキの値上げ浸透も期待される。

印刷インキ（北米）は売上高が3.3%増の44,986百万円だが、営業利益が8.0%減の1,684百万円の予想としている。売上面ではオフセットインキ市場が引き続き縮小傾向だが、パッケージ分野では2017年12月期に当初計画よりも遅れた新規顧客や新ラインを増設した顧客への販売が、徐々に売り上げを伸ばしている。今後も高性能ラミネート用フレキシソインキ、グラビアインキの新製品、UV・EBインキなどの拡販を推進する。利益面ではTPM活動による生産性向上・コスト削減を推進し、下期の収益改善を見込んでいる。2017年12月期に発生した貸倒費用の一巡も寄与する見込みだ。

印刷インキ（欧州）は売上高が5.8%増の9,283百万円だが、営業利益が254百万円の赤字（2017年12月期は25百万円の黒字）の予想としている。販売数量増で増収だが、原材料価格の上昇や競争激化による利益率低下で減益予想としている。下期の収益改善に向けて、コスト競争力のある製品の開発・投入、グローバル顧客への拡販を推進する。

機能性材料は需要が好調に推移して、売上高が10.4%増の12,510百万円、営業利益が14.9%増の1,310百万円の予想としている。インクジェットインキは次世代型製品のタイムリーな市場投入、プリンターメーカーとの関係強化、グローバルな生産・販売体制の強化、カラーフィルター用顔料分散液は高品質製品の市場投入、レジストメーカーとの関係強化、機能性コーティング剤はエネルギー・光学・エレクトロニクス系コーティング分野への参入を推進する。

## ■ 中長期成長戦略

### 世界的に需要は環境配慮型製品へシフト

#### 1. 市場動向

国内印刷インキ市場は、新聞・雑誌等の紙媒体印刷物の減少で成熟イメージが強いが、新聞インキ市場は国内印刷インキ市場全体の約1割を占めるに過ぎず、全体に与える影響は小さい。そして市場の約4割を占めるグラビアインキ市場が堅調に推移し、フレキソインキ市場も拡大している。

特にパッケージ用インキ（段ボールや紙器などパッケージ印刷用のフレキソインキ、食品・化粧品・トイレタリー製品・日用品などフィルムパッケージ印刷用のグラビアインキ、飲料缶など金属缶刷用のメタルインキ）の分野では、世界的に環境配慮型高機能・高付加価値インキへのシフトが一段と進展して市場拡大基調である。

海外は、北米市場では人口増加が継続し、個人消費が堅調で印刷インキ市場全体が拡大基調である。さらに食品・化粧品・トイレタリー製品・日用品などフィルムパッケージの分野では、日本市場と同様に環境対応や高機能化が求められているため、環境配慮型高機能・高付加価値インキの市場拡大・開拓余地が大きい。

またアジア市場は、人口増加や経済成長を背景として、インド、インドネシア、ベトナムなどの新興国で印刷インキ市場全体が拡大基調である。インドでは所得水準の向上や識字率の上昇なども背景として新聞需要も増加基調である。また中国では環境規制を背景として環境配慮型製品へのニーズが高まっている。

地球環境問題を背景として、世界的に需要は環境配慮型製品へシフトする動きを強めている。環境配慮型高機能・高付加価値インキの市場拡大・開拓余地は大きく、特にパッケージ分野を中心に市場拡大基調が予想される。

### 環境配慮型製品開発・投入を加速、新興国市場で高成長目指す

#### 2. 新中期経営計画 2020 を策定

2017年11月に3ヶ年の「新中期経営計画 2020（2018年－2020年）Innovation for the Future～未来に向けた革新～」を策定した。

基本方針は「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」をビジネステーマとして、情報メディアの多様化、食の安心・安全意識の高まり、環境規制の強化を背景とした印刷市場の変化に柔軟に対応し、CSR活動の充実や環境経営の推進を図ることにより、企業体質・経営基盤の強化に取り組むとしている。そしてコア事業である印刷インキ事業及び機能性材料事業の拡大、コア事業で培った技術の応用展開による新規事業の創出を推進する。

## 中長期成長戦略

目標数値には2020年12月期の売上高195,000百万円、営業利益13,000百万円、経常利益15,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益9,800百万円、ROE10%以上を掲げた。新規事業の数値は織り込んでいない。前提為替レートは1米ドル=112円である。

印刷インキ事業の成長戦略は、コア施策として既存印刷市場領域における環境配慮型製品の開発・投入、生産性向上製品の拡販、地域密着型製品の拡販を推進する。そして3ヶ年で先進国市場において10%成長、新興国市場において40%成長を目指す。拡販戦略製品は、環境配慮型製品（水性フレキシオンキ・グラビアインキ、ノントルエン・ノンVOCインキ、ハイソリッドインキなど）、植物由来材料製品（ポタニカルインキ、ライスインキなど）、生産性向上製品（高感度UVインキ、EB硬化型インキなど）、地域密着型製品（グラビアインキ、新聞・オフセットインキなど）としている。

機能性材料事業の成長戦略は、デジタル印刷材料分野では産業用インクジェットインキのグローバル展開、未参入市場（建材・壁装材、ホーム&テキスタイル、アパレルなど）への展開、画像表示材料分野では最先端スペックに合致したカラーフィルター用顔料分散液の開発、中国市場への積極展開、機能性コーティング剤の分野では新機能性材料（ガスバリア性コーティング剤、シロキサンポリマー材料、CNT分散体など）の開発・市場投入を推進する。

新規事業の創出では、住宅・建築、生活環境、エネルギー、オートモーティブ、エレクトロニクスなど、既存の印刷業界以外の分野をターゲットとして、低炭素型印刷用インキ、エネルギー硬化型インキ、新規ディスプレイ材料、新規センサー用材料、機能性分散液、光学・エネルギー着色剤などの開発・市場投入を推進する。

## 既存事業の拡大と新規事業の創出



出所：決算説明資料より掲載

サカタインクス | 2018年4月2日(月)  
4633 東証1部 | <http://www.inx.co.jp/>

中長期成長戦略

セグメント別（連結調整前）の目標数値は、印刷インキ・機材（日本）が売上高 59,900 百万円で営業利益 2,600 百万円、印刷インキ（アジア）が売上高 46,600 百万円で営業利益 3,900 百万円、印刷インキ（北米）が売上高 52,700 百万円で営業利益 2,500 百万円、印刷インキ（欧州）が売上高 9,800 百万円で営業利益 500 百万円、機能性材料が売上高 17,400 百万円で営業利益 2,400 百万円、その他が売上高 16,200 百万円で営業利益 400 百万円、調整額が売上高マイナス 7,600 百万円で営業利益プラス 700 百万円としている。

重点施策としては、印刷インキ・機材（日本）では環境配慮型・省エネ志向製品の積極展開、TPM 活動の深化と物流最適化によるコスト削減など、印刷インキ（アジア）では地域密着型製品の開発推進とパッケージ分野のさらなる拡大、環境配慮型・省エネ志向製品の積極展開など、印刷インキ（北米）ではフレキシソ・グラビア・缶用インキの拡販、パッケージ関連設備の増強、研究開発拠点集約による開発強化など、印刷インキ（欧州）では拠点再構築による生産・販売体制の強化、ブランド力の強化など、機能性材料事業では差別化製品のタイムリーな開発、戦略的パートナーシップの強化などを推進する。

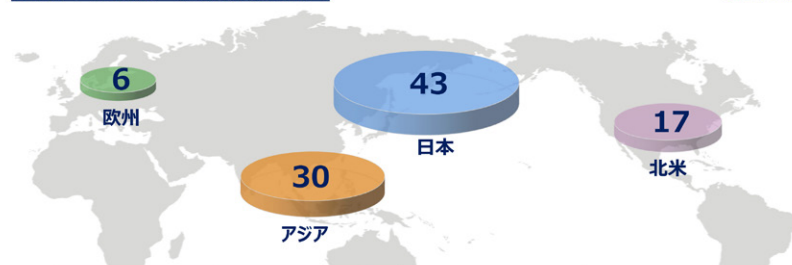
設備投資計画は 3 年累計投資額を 18,000 百万円（印刷インキ事業 8,000 百万円、機能性材料事業 3,900 百万円、国内工場再構築関連 1,600 百万円、通常投資他 4,500 百万円）としている。地域別には日本 8,500 百万円、アジア 4,300 百万円、北米 4,700 百万円、欧州 500 百万円としている。減価償却費は 3 年累計で 14,100 百万円の想定である。

なお 2018 年 12 月期の地域別投資計画及び設備投資内容は図表のとおりである。日本では滋賀工場の新聞・オフセットインキ設備増設が 2018 年 1 月完了した。本格稼働により、下期の収益改善に寄与する見込みだ。北米ではウエストシカゴ研究所の拡張・充実が 2018 年完工予定である。印刷インキとインクジェットインキの研究開発拠点を集約して開発を強化する。ベトナムではリキッドインキの第 2 工場が 2019 年完工予定、中国ではオフセットインキの第 2 工場が 2019 年完工予定である。いずれも一段の拡販を推進する。

地域別投資計画

2018年12月期 地域別投資計画

(単位：億円)

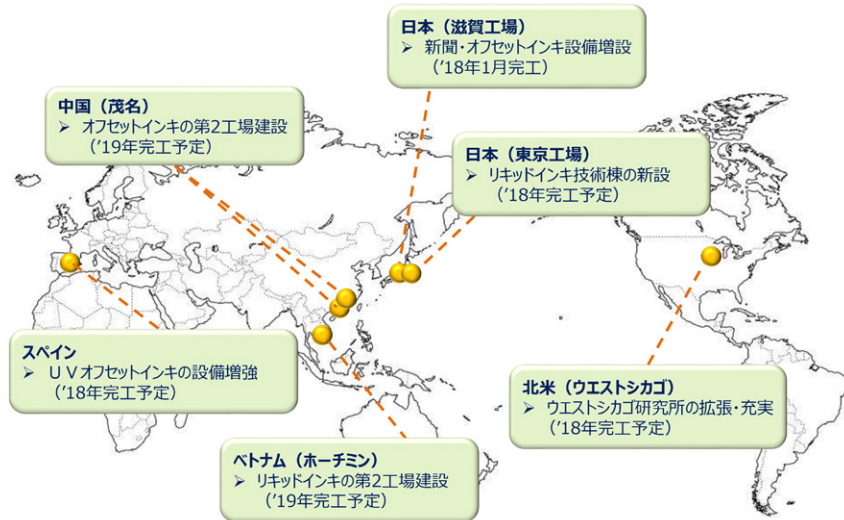


地域	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期予定
日 本	15	26	43
ア ジ ア	7	9	30
北 米	13	13	17
欧 州	2	2	6
合 計	37	50	95
減 価 償 却 費	36	38	44

出所：決算説明資料より掲載

中長期成長戦略

設備投資内容



出所：決算説明資料より掲載

また成長を加速させるための総投資枠として 28,000 百万円を想定しており、その内訳を設備投資計画 18,000 百万円、戦略的投資枠 10,000 百万円としている。

## 中期的に収益拡大基調

### 3. グローバル展開の加速と環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販で中期的に収益拡大基調

世界的に環境対応型製品へシフトする流れが強まっている。そして世界的に市場拡大・開拓余地も大きい。先行してグローバル展開した実績、各国の地域特性に合わせて製品投入するノウハウ、環境配慮型高機能・高付加価値製品の開発・品揃え・高シェアが強みであり、グローバル展開の加速と環境配慮型高機能・高付加価値製品の拡販で、中期的に収益拡大基調と一段の高収益化が期待される。

## ■ 株主還元策

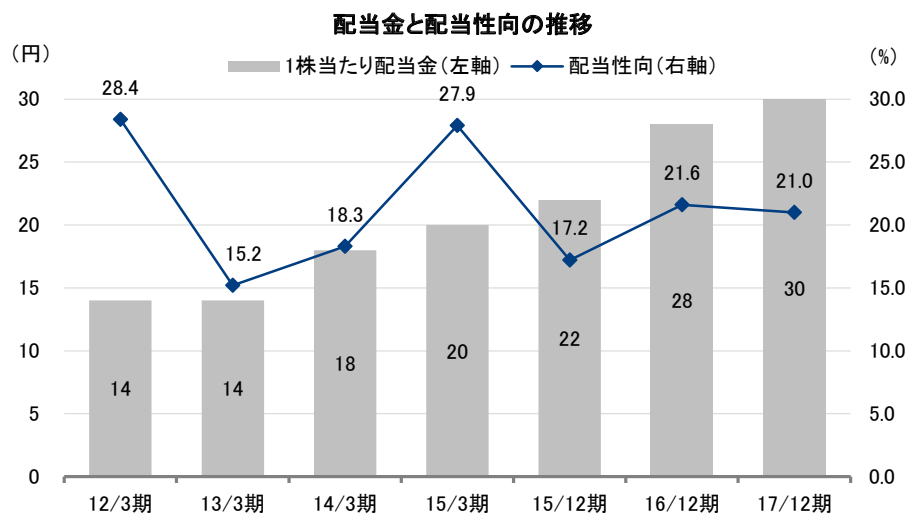
### 連結配当性向 20% 前後から 30% 前後を目安、株主優待制度も実施

#### 1. 連結配当性向 20%前後から 30%前後目安

利益配分については、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主に対して利益配当を含めた利益還元を経営の重要施策と位置付けている。配当については、安定的な利益還元を行うことを基本方針としつつ、連結配当性向 20% 前後から 30% 前後の範囲を目安として実施していきたいとしている。

この基本方針に基づいて、2017年12月期の配当は1株当たり年間30円(第2四半期末14円、期末16円)とした。2016年12月期の年間28円(記念配当2円含む)との比較で2円増配である。配当性向は21.0%だった。

そして2018年12月期の配当予想は、2017年12月期と同額の1株当たり年間30円(第2四半期末15円、期末15円)としている。予想配当性向は26.5%である。



注：15/12期は9ヶ月決算  
 出所：決算説明資料より掲載

#### 2. 株主優待制度は毎年12月末実施

また株主優待制度を実施している。毎年12月31日現在の1単元(100株)以上保有株主を対象としてQUOカード1,000円分を贈呈する。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ